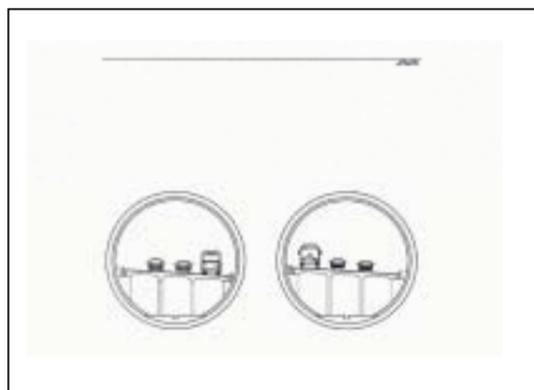


(3) 地下水

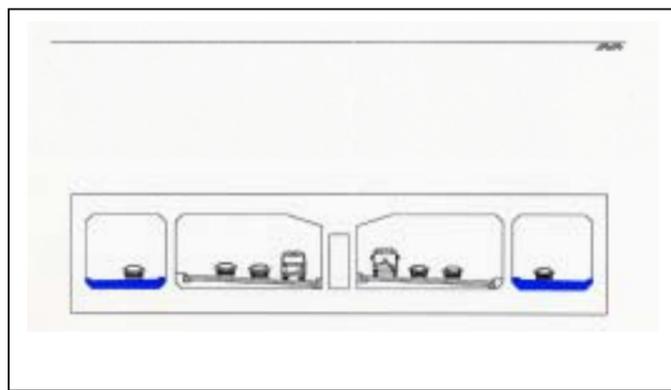
地下構造の構築工法は、地中を掘り進む工法（シールド工法）と、地上から掘り下げる工法（開削工法）があります。インターチェンジがある場合、連絡路が外環本線から分岐する付近からは開削工法となります。

シールド工法の場合は、一般的には地下水に及ぼす影響は小さいと考えられますが、開削工法の場合は工事中及び完成後の両方において、地下水の流れに影響が生じる可能性があります。

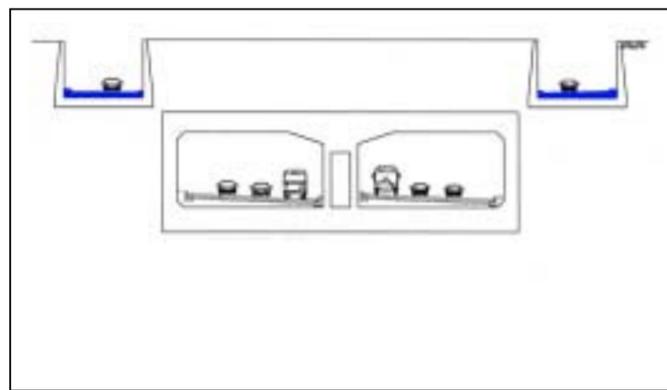
外環本線は地下を走ります



まず、インターチェンジへの連絡路が外環本線から分岐します



次に、インターチェンジへの連絡路が半地下構造となります



インターチェンジへの連絡路が地表に現れます (アクセス道路に接続します)

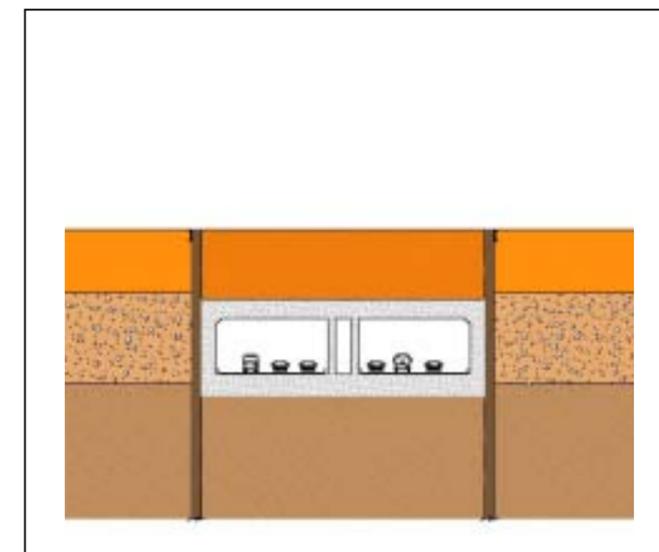
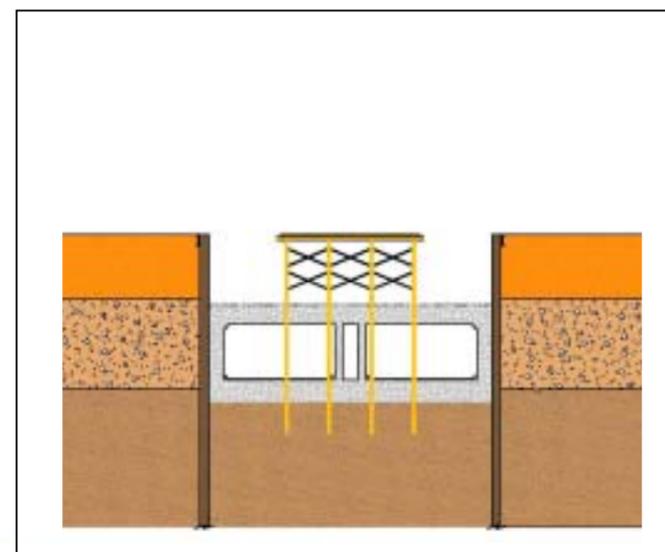
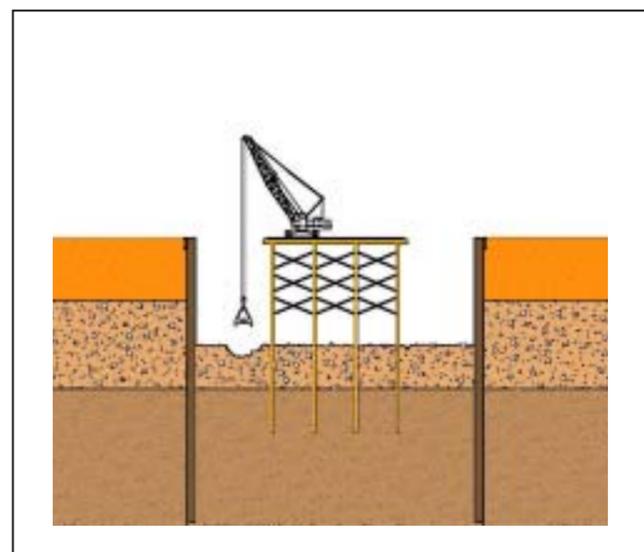
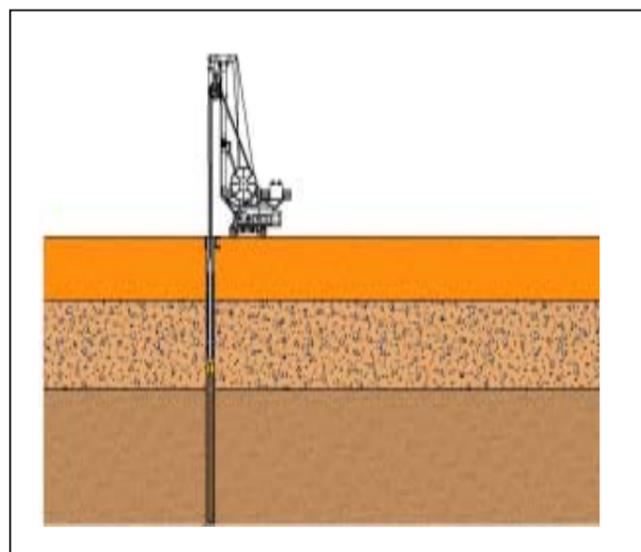
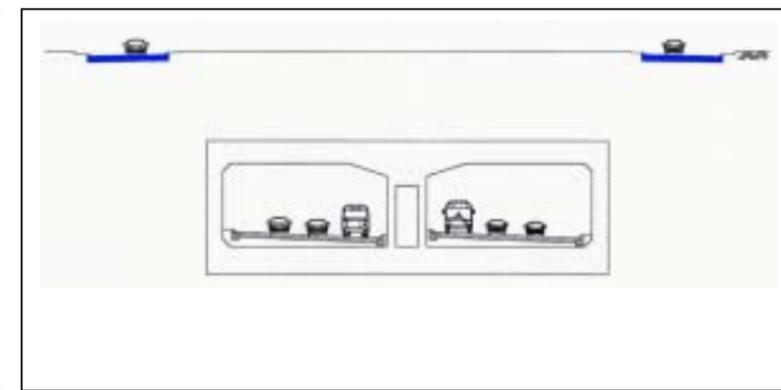


図 開削工法の手順

地下水面が低下すると、近辺の自然や建物に影響を与える可能性がありますので、安定した地下水面を維持する必要があります。このため、上流側と下流側を接続するなど地下水の流れを確保し、周辺地域に与える影響を最小限にする必要があります。